

## 第0章 全体の傾向

区分別の排出量、移動量の推移を図0-1に示しました。

24年度の排出量は162,000トンであり、そのうち91%が大気への排出です。大気排出量は、22年度に政令改正による追加物質の影響で前年度比で8,400トン(5.4%)増加していますが、その他の年度では減少傾向にあり、24年度の排出量は15年度と比べ105,000トン(42%)減少しています。水域排出量は全体として減少傾向にあり、24年度の排出量は15年度と比べ4,900トン(39%)減少しています。土壌排出量は、22年度に政令改正でエチレングリコールが削除物質になったことにより、前年度比で350トン(75%)減少しています。また、24年度に前年度比で150トン(99%)の減少となり、土壌排出量はほぼなくなっています。埋立処分量は、全体として減少傾向にあり、24年度の埋立処分量は15年度と比べ20,000トン(72%)減少しています。

24年度の移動量は219,000トンであり、そのうち99%以上は廃棄物移動量です。廃棄物移動量は、21年度までは減少傾向ですが、22年度、23年度の2年間にわたり合計50,000トン(29%)増加しており、24年度の廃棄物移動量は15年度と比べ15,000トン(6.4%)の減少にとどまっています。増加したのは、追加物質の影響が大きいです。継続物質も増加しています。下水道移動量は、追加物質の影響はあるものの、全体として減少傾向にあり、24年度の下水道移動量は15年度と比べ1,700トン(56%)減少しています。

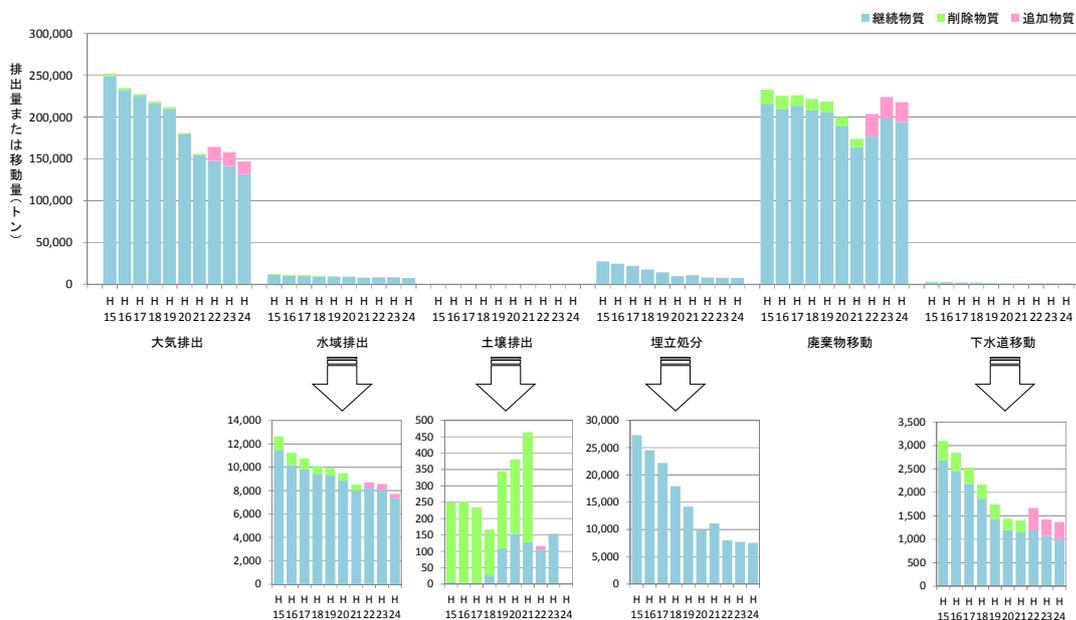


図0-1 区分別の排出量、移動量の推移